



Servas Japan Tohoku

支部ニュース

No.84



目次

支部長挨拶	T.N	(新潟)
東アジア会議報告	M.S	(仙台)
寄稿1 福島便り	N.T	(福島)
寄稿2 佐渡一周サイクリング	T.S	(新潟)
寄稿3 集団移転へ	T.N	(白石)
事務局から	M.S	(仙台)

TOHOKU

支部長挨拶

秋を楽しみたいと思っていたら…冬ですね。 T.N

みなさんお元気ですか？この前は秋らしくなってきたとお話していたらすぐに台風、大雨、初雪とききましたね。秋を楽しみましたか？私たちは東海支部の蓼科三井の森の例会に出席希望でしたが、あいにくの台風で延期になりました。諏訪や蓼科の秋の模様や、東海支部の手作り例会の模様の報告は次の機会に譲ります。

さて、先の支部ニュースから今回のニュース発行の間に来年の支部総会のお話を M 事務局長から新発田の T 会員に頂き、前支部長の T.S さんと一緒に検討しました。女性会員の下見を経て、今回のニュースで支部総会案を提示いたしますので、ご多忙でしょうが、ぜひお出かけください。

昨年の支部総会での布芝居を契機に、T 会員の発案で、岩手の高校生が、弥彦のお年寄りの作った 4 部の布芝居を約半年かけて彼らの慈善活動の一助にしてください、貸した時より綺麗になって返してもらいました。先日布芝居の代表の T さんのお宅に家内と返却にあがった時、T さんたちにも岩手訪問の機会があり、その際に自分たちの布芝居の話題を人づてに聞いたとの

報告がありました。本当に感謝しています。このような結び付きを大切にしていきたいと思います。

我が家の変化では、11月20日から、里子の K が新潟市の全寮制の学園に入りました。一人家族が少なくなりますが、来春 3 月には次男も新潟に転職して来るようです。娘も自分の買った中古車ですが、私のプレゼント・交換してやったスノータイヤで元気に通勤しています。孫のさらもさらに成長しました。我が家では、今度は次女の嫁さんが来るのを待っています？！

ところで、最近の話題では、オリンピック誘致の決定で湧きましたね。その後、猪瀬知事の金銭の問題がでました。あれだけの急先鋒だった方が変わってしまうのだなと少しがっかりしています。また、稲森和夫氏の「燃える闘魂」の中に、80 年周期説が書かれています。それによ



れば2025年に日本の危機が訪れるとあります。まさにオリンピックの5年後ですが、オリンピックがピークか？と思ってしまいますね。寂しくならないで、明日に向けて、若い方々と交流して、新会員を増やして、楽しい東北支部にしていきたいですね。

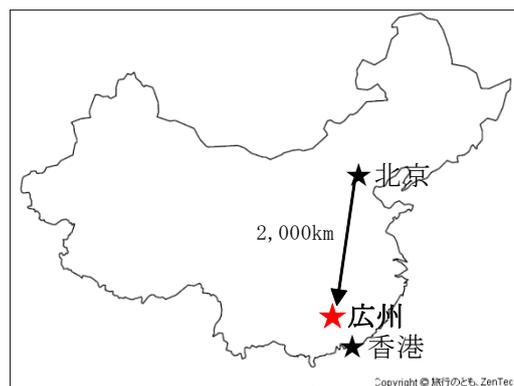
[目次に戻ります](#)

アジア会議報告

中国・広州で開催の東アジア会議に参加して

M.S

広州へ旅立つ11月14日の頃は仙台は朝晩寒く、すでに晩秋の季節に移っていました。少し悩みながらも全て冬物の衣服を持ちました。北京から広州まで遙か2,000キロも離れているというのに、度々テレビニュースに写る北京の気候が広州も同じだろうと思い込んでいたのです。友人たちも私同様で、中国のことはほとんど分かっていない様子で「中国は大気汚染が深刻だから、マスクをたくさん持って行きなさいよ!」などと言って送り出してくれました。



下調べを十分にしていなかった私は広州空港に着いてまず夏のような暑さに仰天し、空港で「Tシャツを買わなければ!!」と探すもどの店も売っているのは冬物だけ、仕方がないので私はセーターを着たまま地下鉄に乗り開催場所の「中山大学」まで行きました。暑さに閉口したことなど、今となっては忘れられない思い出となりました。

開通して間もない地下鉄を利用して目的駅「中山大学」まで2回の乗り換えが必要でしたが、思っていたより難しくなく、車内も清潔で快適な1日目がスタートしました。

駅名が漢字で書かれているのも日本人の私には大いに助かりました。また地下鉄の中に乗っている若い女性の服装も日本の女性たちのファッションと全く同じで、異国にいるという疎外感を余り感じませんでした。友人たちから「何で中国のような怖い国に行くの?!」と言われていたので、まず地下鉄の中で特に困ったこともなくほっとしました。

2008年・香港での東アジア会議の後、香港から列車で2時間と近い場所にある広州にも足を伸ばしましたので、「中山大学」は私にとって2回目となります。心配していた大気汚染も深刻ではなく、マスクをしている人には会わなかったのです。1,300万人の人口を抱える広州の混雑する道路事情はやはり日本とは違ったものでした。今年の9月モンゴルに行った時、ウランバートルの道路を横断するには決死の覚悟が必要でした。しかし広州ではクラクションの大騒音には閉口しましたが、道路を横切るのはさほど大変ではありませんでした。早朝から街の清掃はされているのですが、紙くずなどが道路にあふれていて、「ゴミを道路に捨てない」といった初歩的な道德教育もまだまだ守られていないようでした。



東アジア会議の会場となった「中山大学」は広大な敷地の中にある特別に場所で、会議場の建物内も、ホテルも掃除が行き届いて快適な3日間を過ごすことができました。中国サーバスの会長が教授として深く関わっている場所であり、私たち参加者は彼のお陰で快適な環境で会議が出来たことは本当に感謝です。

会議の終了後は2日間とも徒歩5分の所にある立派なレストランに全員で夕食を食べに行きました。途中には小さな屋台が道に添って所狭ましと建ち並び、多くの人が食事をしていました。そこにはゴミがあふれていて、清潔な場所に慣れている私にはその情景はやはり想像をはるかに超えるものでした。私たちが招待を受けたレストランは広く清潔で大皿に盛られた中国料理が次々と運ばれてきて、

丸い大テーブルにのらないほどの量の多さでした。「和食」がユネスコ・無形文化遺産に登録されましたが、中国料理もみごとに感心しました。

今回の会議の参加国は中国、韓国、香港、モンゴル、日本、(台湾からの参加者なし) だけでなくイスラエルとマレーシアから応援参加に来てくれたことは嬉しいことでした。30 名以上の参加者がありましたが、顔馴染の方も多く再会はとても懐かしく楽しいものとなりました。モンゴルの H さんも初参加でしたが堂々とプレゼンテーションをして大いに場を盛り上げるものとなりました。

初めての試みで日本も参考に出来ら良いと思ったのが 7 名のボランティアの存在でした。英語も話せるのでいろいろと私たち参加者を助けてくれました。私のために「T シャツ」を買ってくれたのも彼らでした。現在はまだビザが簡単には発行されない中国の若者たちですが、近い将来彼らがサーバス・トラベラーとして、日本にも滞在する日が来ることを心から願っています。

国際会議のように 200 名を超す人数の参加者と違い東アジア会議は初めて参加者する方にも余り威圧感なく受入られると思います。2015 年は韓国サーバスが開催国に決まりましたので東北支部の皆さまにぜひ参加をお願いします。

「A Report of the 7th East Asia Meeting」 英文ですが九州支部の N.M さんが会議の 3 日間を詳しく分かりやすく書いてくださっていますのでどうぞお読みください。N さんの報告書をお読みくださった後、皆さまはきっと次回 2015 年の韓国で開催予定の東アジア会議には参加してみようと思われるのではないのでしょうか。

以上

[目次に戻ります](#)

寄稿 1

福島便り

N. T

個人住宅の除染が始まりました-----

2011 年夏頃より、福島県内の学校やいわゆる公の施設では、放射性物質の除染が始まりました。しかし、比較的占領の高い場所を除き、個人住宅の除染は遅れていました。

ようやく 2 年も過ぎて、私の住んでいる蓬萊町でも除染の通知が大林組より届きました。まず、行政側(市役所)の担当者、大林組の係りの方、それから私の 3 者打ち合わせ会が 10 月 21 日(月)にあります。

すでに終了した人の話によりますと、作業の順序は、まず線量を計測し、

① 屋根・雨樋 ② 壁 ③ 庭の手順で行うそうです。

屋根や壁は高圧の水噴射器で洗い流します。庭は数センチ、表土を剥ぎとり、プラスチックの箱に入れます。次に、隣家より離れた場所に穴を掘りそれらの箱を埋めます。それにシートをかぶせ、土でおおい完了です。

もちろんこれは「現場保管」という小さな仮置き場です。

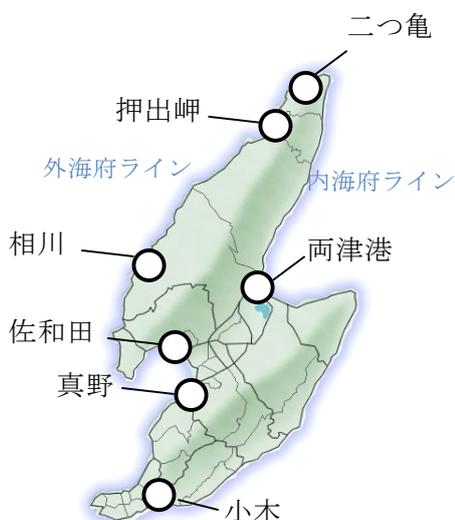
現在、東電と国は福島第一原子力発電所周辺の市町依存に永久の保管場所を策定計画検討中です。除染後の線量が 0.23 ぐらいを目ざしていますが、さて、実際はどうなることやら。

次回報告します

寄稿 2

佐渡一周サイクリング

前東北支部長 T.S



9月7日～8日（土～日）、1泊2日で自転車で佐渡を一周してきた。昨年も計画したが、9月に入ったら天候が悪くなり、行けなかった。今回、土曜日は午後から雨、日曜は昼前まで雨が降ったり止んだりだったが、おかげで涼しいなかを約200キロ走ることができた。佐渡はいつも目の前にあった。小さい頃からずっと佐渡を見てきた。今は職場への行き帰り、朝と夕方いつも佐渡を見ている。昨年夏は新潟から実家のある村上まで約70キロを走った。その後も村上近くの笹川流れを走ったり、家ではあちこちサイクリングをしてきた。でも今回は約200キロである。地図通りに一周すれば実際は約260キロであるが、佐渡一周線は島の左側の小木海岸を通らないで弁天岩という地区から小木港に抜けるため、佐渡一周ラインは約200キロである。1日目は両津港から相川まで、2日は相川から両津港までとした。体力があるか不安だったが、思い切って行くことにした。

1日目は朝4時半頃家を出て6時発のフェリーで佐渡に向かった。両津着8時半。到着直後8時35分に相川を目指して出発した。地図の右側の内海府と呼ばれる県道45号線を北上し、相川に向かった。相川まで約90キロである。曇り空で暑くもなく寒くもない。サイクリングにはもってこいである。それにしても夏の終わった佐渡は静かだ。車も通らず、まして人の姿もほとんど見えない。右側に海を見ながらひたすらペダルをこぐ。サイクリングは目的がはっきりしている。目的のはっきりしない前進もあるが、サイクリングははっきりしている。ただひたすら目的地に向かってペダルを踏むだけである。忍耐と体力があればいい。

9月上旬でもう夏も終わったはずなのにせみがあちこちでやかましく鳴いている。ひまわりも多く見える。朝顔も見える。佐渡はまだ夏は終わっていない。右側に海、左側に山を見ながらの走行である。お昼頃までには内海府ラインのてっぺんあたりの「二つ亀」までの到着を計画した。道中結構坂がある。今回使用した自転車は9段切り替えのマウンテンバイクであるが、あまりスピードは出ない。なだらかな坂や急な坂が何度かあり、「人生下り坂最高」を何度か体験した。出発してから2時間半ぐらい経った11時頃急に腹がへってきた。今朝は家で作ってもらったおにぎりを2個、船内で食べただけである。これが誤算であった。道中いくら探してもお店屋さんがないのである。食堂もしかりである。腹が減っては戦もできない。ただ自販機だけはあちこちにあり、そこで飲料水を補給した。ようやく内海府小・中学校近くで雑貨店を見つけ、パンと牛乳とかもぼこ(!)を買い、急いで食べた。おにぎりはなかった。それでも大部食べたので、腹一杯になり、30分位休憩して、また「二つ亀」目指して走り続けた。

天気は相変わらずである。二つ亀に向かう途中、長い坂があった。坂の時は無理をしない。降りて歩くことにする。二つ亀を過ぎたら、長い坂道があった。一気に下り降りた。下りの時は時速40キロは出る。坂道が終わる頃一人の若い女性が手を振ってくれたが、話すこともなくそのまま走り続けた。1時頃ようやく半分くらい走った。道路工事をしている人を除けば誰もいない。家に電話し、少し休憩し、また走った。押出岬から急な長い坂道があった。これは佐渡一周で出会った一番の坂道であった。毎年9月初旬に佐渡国際トライアスロン大会が開催されるが、一番長い距離を走る種目は佐渡一周である。選手達はこんな坂道をもものともせず走るのかと思うと体力差にがくぜんである。概して風景はいい。海岸脇には小さな田んぼがあり、収穫前の稲が実っている。内海府から外海府に入ったのだが、内海府で聞いたせみはもう聞かない。逆に今度は一気に秋で、あちこちにコスモスが見られる。

しばらくするとあいにく雨が降り始めた。大降りではなかったが、雨ガッパを着た。昨日百円ショッ

プで買ったものである。相変わらずゆるやかな坂が何度もある。トンネルも何度かあった。自転車でトンネルを走ると、車の音がものすごい。文字通り轟音を立てて、近づいてくる。思わず怖くなって、車の通り過ぎるのを待った。雨が降り、しかも土曜日の午後である。全く人は見ない。ひたすら相川を目指して走り続ける。

相川の町中に着いたのは4時頃であった。昨夜予約した民宿がわからず、電話するともう少し南に行った所にあるという。民宿を目指して走っていたら3人の若者が私と反対方面に自転車で走って行った。今回初めて会ったサイクリストであった。15分位して民宿を見つけた。「たきもと」という民宿である。待っても来ないので、電話をしようと思っていたという。民宿と言っても小さなホテル並の建物である。早速部屋に案内され、お風呂に入った。夕食は6時頃という。民宿に着いたのは4時半頃であった。両津港を出発したのが8時35分であった。途中1時間くらい休憩したから、実際に走ったのは7時間くらいであった。7時間で90キロちょっとであるから時速13キロ位である。サイクリングを終えた後、新潟の自宅近くにいるトライアスロンもやる人に聞いたら、ロードレース用の自転車なら軽く走っても30キロ、40キロは出るそうである。道路状況にもよるが今の倍くらいは優に出る。実際その人に聞いたら佐渡は一日で走破だそうである(!)。昨年夏実家まで走ったときは70キロを7時間もかかった。もっとも使った自転車は3段切り替え16インチの自転車だった。走る自転車なら2時間ちょっとで行ける。

2日目早朝東京オリンピック決定のニュースをテレビで見、テンションが高まったが外はあいにく雨。昨夜は夕食をほとんど食べた。食べ切れないほどの料理が出た。サザエだけを残して全部平らげた。夜は疲れがあるから熟睡できるかと思いきや、なぜか熟睡はできなかった。朝起きたとき足腰が痛くて走れないかと思いきや、全く普通通りであった。朝食をしつかりと食べ、民宿を7時45分に出発した。

小雨だからと雨ガッパを使用しなかったが途中から雨が強くなり、また雨ガッパを使用。この後、雨ガッパを脱いだり、着たりの繰り返しが続いた。両津港までは小木港経由で約100キロである。道路は県道45号線である。昨日は食料調達に苦労したので、今度はお店屋さんがあったら何でもいいから食べ物を買うことに決めた。

佐和田を走っていたら小さなスーパーを見つけた。急いで中に入り、パンと果物、それに1リットルのお茶を買った。残念ながらおにぎりはなかった。でも収穫はあった。これで両津港まではもつだろう。佐和田を過ぎたら県道45号線の名は消えて350号線になった。何度か自転車を止め、確認する。地図で見ると佐和田あたりからは350号線となり、両津まで続いている。小木から45号線になることがわかった。なぜ途中で45号線が消えるのかわからない。

小木に向かって走っていると左手に何度も両津まで25キロとか30キロとかの標識が見える。佐和田あたりから350号線を使えばわずか2,3時間で両津まで行ける。でもそれでは佐渡一周にならない。せっかく佐渡に来たのだから、やはり佐渡一周を完走することにした。小木港までは結構坂が多い。民宿の主人に聞いたら小木経由でも坂道が多くあると聞いたがその通りであった。坂道はギアをローにすれば登れないことはない。でもそれだと体力の消耗が激しく、すぐ疲れてしまう。それで私はゆるやかな坂でも自転車を引っ張っていくことにした。坂道を登り切って後ろを振り返ると坂道の長さに驚くことしきりであった。雨が降ったり止んだりなので坂道はぬれていて危ないので、スピードを制御して降りることにした。お昼近く小木港に到着。港の脇の公園でパンと果物で昼食を取る。丁度フェリーが直江津から到着したばかりであった。

30分くらい休憩した後、ゴールの両津港目指して出発した。小木から両津港までは約60キロ。予想としては4時間ちょっとである。小木に着いたら雨も上がり、今度は雨ガッパなしで走れる。相変わらず人のいないところを走る。本当に人の姿は見えない。随所に見えるのは〇〇の里と時々目にする廃校になった校舎である。佐渡もじっくり回れば歴史があるから結構おもしろいと思うが、いまはそのような余裕はない。サイクリング後知り合いの本屋さんに佐渡一周のことを話したら、夏に家族で2泊3日佐渡を回ったが、時間がなくまだ見ていない所が多くあると言っていた。特にお寺巡りは面白いと言っていた。相川などは金山があったので、江戸からの罪人が佐渡に送られたが、地元の女



性と恋仲になり、逃亡を企てたが失敗し、死んだ男女が多くいたと聞く。その墓が相川にはあると聞いたので、地元の人に案内してもらえれば結構面白い体験にはなる。でも今回はそのような余裕はない。ただひたすらゴール目指して走るだけである。両津まで右側に日本海を見ながらのサイクリングである。

途中どの辺だったろうか、喪服を着た年配者が歩いてきたが、私に向かって手を振ってくれた。今回2度目である。真野町を過ぎたあたりから右側に島が見える。七浦海岸のある半島である。新潟への最終フェリーは19時半である。それまでには十分間に合うので、急ぐ必要はない。それでも早く着きたいという願望からから、ペダルを踏む足も速くなる。結局両津港に着いたのは夕方5時半であった。

フェリーは出たばかりか港の周辺や待合所は閑散としている。切符を買いに行くと丁度高速船が出るところであったが、19時半のフェリーの切符を買った。しばらく時間があるので土産物売り場に行ったが、ここもほとんど客はいなかった。土産物を少し買い、食堂を探したが、もう閉店であった。港近くの食堂で夕食を取り、19時半発のフェリーに乗り込んだ。客はまあまあである。新潟までは2時間半。新聞を買って読んでいたら、72歳の男性がカナダの西海岸から東海岸まで5000キロ（だったか）を3ヶ月かけて走破したという記事を読んだ。上には上があるもんだと感心するやら驚くやら。いつか私も退職したら海外も走ってみたい。

去年は後半尻が痛くて走るのに苦労したが、今回は特別なサドルカバーと尻に特別のパットがついているハーフパンツを買った。これが効果抜群で2日目終了後にも特に尻に痛みは感じなかった。両津港に着いた後もそれほど疲れはなく、まだ余力はあった。佐渡は今回で3回目である。家の近くの海から佐渡が見える。職場への往復時にもいつも佐渡を見ているが、今は特別な気持ちで佐渡を見ている。

[目次に戻ります](#)

寄稿 3

集団移転へ

T.N

国の復興予算が切れる前に実施しなければならないらしく、堤防工事や集団移転工事がここにきて急ピッチで進んでいます。問題なのは堤防工事がすべての基準になっているからややこしい。国道のかさ上げ、住宅地の買い上げなど。少しずつ生活基盤の復旧が進んでいくのはうれしいことに違いないが、それらが一斉に進むことに戸惑いもあるようです。現地ではそろそろ土地の買い上げ交渉が始まります。その金額が決まらなると集団移転や新しい住宅の設計もままならない。そのまま元の場所に住むのか、移転するのか新たにどこかを探すのか。

仮設住宅に住んで三年。ここで育んだ隣組の絆も後ろ髪ひかれる一つの要素となって離れがたい感情もあるようです。仮設住宅から職場に通い、こどもの誕生から入園、入学そして卒業、さらに就職して土地を離れていく子供たち。すべてが毎日の生活そのものであり、隣組と生活が仮設住宅の中で出来上がっているからです。あの3月11日までは、元の場所で送ってきた日常そのものですが、見えてこない現実はもっと厳しい。生活基盤と肉親をも失った今、新たに2年後の生活設計に取り組まなければならないからです。

皆様からお送りいただいている布地端切れはとても喜ばれています。目の前に自宅建設が見えてきたからかもしれませんが、各仮設住宅でお母さん方の手内職として小物づくりが盛んになっています。

持参する布や糸は小泉地区、本吉地区のほかの仮設住宅に利用されていることがわかりました。昨年までお母さん方の活動はそれほど活発ではなかったのですが、仮設住宅の談話室などを使って寄り集まって糸の帽子を編んだり、小物を作って販売したりと楽しむ姿が増えてきたというのです。そこに私たちが集めた物資が生かされている、はからずも地区全体で利用されていることに驚きと喜びを感じます。

物資を運ぶ時にあっちにもこっちにも持っていかねえと考えるとありますが、実際にそのような労力はありませんし、不可能でした。そこで2年前の4月から、小泉地区だけの応援をしてきまし

た。しかし、運んでいる物資が知らないうちにまだ必要なところに運ばれていき、喜ばれていることを知り支援の本当の姿が見えてきたように思います。

もともと小泉地区とその付近には500世帯があつてその8割が流されていて複数の地区に分かれて仮設住宅があります。その仮設住宅すべてに物資を届けるのは不可能なのです。だから昨年まで2年間お米を持参したときなどはローテーションで届けていたものです。

今年も白石で物資の集積所を引き受けていただいた方々や婦人会など有志で餅つきに出かけます。子供たちからのリクエストのプレゼントも持参します。ラーメン屋さんからの寄付で水も運びます。昨年からはじめました2年後の住宅建設プレゼントとして水仙の球根集めも現在2500個になりました。これは各家庭へのプレゼントですが一年中花を咲かせる企画として、季節の草花や木々をプレゼントすることも考えています。

木々については購入の資金をナショナルトラストで考えています。集団移転の道路に桜の苗木を100本植えて花見ができるように考えます。桜の次は桃と藤棚、栗とナラ、こぶし、低木としてレンギョウ、アジサイなどです。皆様の参加をお待ちします。振込先などは別途用意します。

※ 引き続き布端切れ、和服、水仙の球根、コスモスの種子のご寄付をお願いします。

[目次に戻ります](#)

事務局から

2014年度サーバス東北支部総会のご案内（案）

【会場】

弥彦総合文化会館

〒964-0904

新潟県西蒲原郡弥彦村弥彦

電話 0256-94-4311

【日程】

○ 2014年5月17日(土)

13:00 - 15:00

支部総会

1. 支部長挨拶
2. 自己紹介
3. 支部会員自己紹介
4. 2014年収支決算報告
5. 「あなたにとってサーバスとはなんですか？」

※新会員の参加があればここで紹介してもらいます。

サーバス体験談を一人一人お話してください。

15:15 弥彦の布芝居 「良寛さま・ぶんぶく茶釜」

16:00 移動してチェックイン

16:30 弥彦公園、ホテルみののやの足湯、弥彦神社を散策してマジックディッシュへ

18:00 夕食・懇親会・ピアノ演奏(マジックディッシュ) (1500円夕食とコーヒー、アルコール・ワイン・他飲み物つまみ持ち込み可500円徴収)

21:00 お泊りの冥加屋ハウス



0256-94-2135 (朝食付き 5000 円)

○ 2014年5月18日(日)

7:00 朝食

9:00 チェックアウト

※ 希望者は、弥彦ふるさと学校・旧武石家住宅・五合庵・大河津分水・和島良寛の里の観光に行きます。

お昼過ぎ 新幹線燕三条駅・高速インターにて現地解散。

※ 交通のご案内

冥加屋ハウスは弥彦線弥彦駅前1分です。

宿泊のご案内 近くには温泉旅館、ホテルが沢山あります。どこを希望されても、ご案内できます。
(弥彦観光協会のホームページ参照)

<<お願い>>

今回お送りした支部ニュース84号にアンケートハガキを同封してあります。

2014年1月10日までに返信のご協力をお願いします。支部活動を本部に報告する大切なアンケートとなっております。

[目次に戻ります](#)